



# ゆんたく 都島

2016 Vol.24

都島

Contents

理事長 巻頭MESSAGE

特集 都島友の会 創立85周年

創立85周年を迎えて（平成28年の記念行事） /

幼保連携型認定こども園となって、この1年- / 乳児・幼児保育ガイドブック完成！

保育士復職応援

児童発達支援センター 都島こども園 / 特別養護老人ホーム ひまわりの郷 / 都島児童館

比嘉正子地域貢献事業研修センター ひまわりネット / ゆんたくinformation

社会福祉法人 都島友の会





MIYAKOJIMA  
85th  
TO KOBORO  
創立85周年を迎えた  
都島友の会

社会福祉法人都島友の会 理事長 渡久地 歌子

平成28年3月1日、都島友の会は85周年を迎えました。

法人の誕生した大阪市都島区は大阪市の北東部に位置します。設立当初(昭和6年)の都島は日本の近代化を支えられた大阪市の急速な発展によって、農村から住宅地・工業地・商業地の混在化した市街地へと大きく変貌を遂げました。しかし戦争が始まり、大阪大空襲で都島は焼け野原となり、敗戦を迎えます。

戦後、焼け野原から出発した日本の中で、都島も高度成長と共に繊維業や軽工業を中心に発展、人口も増加して行きましたが、昭和40年代後半から公害等の問題で工場は地方へ移転し、人口も昭和40年の3万1303世帯をピークに減少をたどります。

その後、繊維工場等の広大な跡地は大規模な超高層マンション群に生まれ変わり、市立総合医療センターや福祉施設、毛馬桜宮公園、淀川開発等々、また生活関連施設も整備され、水と緑に恵まれた魅力あふれる「街」に変貌を遂げました。世帯数も平成26年には、5万1452世帯になるなど、ドーナツ化現象から都心回帰現象へと時代社会の変遷とともに人口も増え、子どもの数も増加していきました。

現在、都島区は65歳以上(高齢者層)の世帯が3万1303世帯に及び、少子高齢化の進行や居住家屋の老朽化、核家族化や単身世帯の増加等々、ご多分に漏れず日本社会の抱える幾多の問題が集約されたように、課題もまた山積しています。

私たち法人は、日本はもとより、このよう

にも変遷してきた都島区の歴史と軌を同じくして変化を遂げて来たのではないかと思います。先日、古い資料を整理していると、比嘉正子が、60周年(1991年)を迎えた時のことがありましたので、すこし紹介したいと思います。

『私は、昭和6年、26歳の時、3人の乳幼児を育てながら青空幼稚園を始めました。名もなく、金もなく、地位もなく、あるものは銀行員の夫と3人の子とだけです。大阪北市民館の館長であった志賀志那人先生から「キミ、都島へ行つて幼稚園を作らないか、子ども3人育てるのも20人育てるのも一緒だよ。人間が作った建物だけが園舎ではない。ブランコやすべり台だけが遊具ではない、天然自然、神様はおのずから子どもたちに素晴らしい恵みを与えて下さっている。木の陰や、野原、公園は、みなこれ園舎である。石ころ、虫けら、花や木の葉、土など、これみな子どもの恩物だよ。』とお話しされました。尊敬も、社会福祉の先達者として著名な先生の語る保育理念のひとつと一言が身に染み、眠っていた社会事業への情熱が炎のごとく燃え上がり、やれるような気持ちで芽生えて「よし、やろう」と決心するまで、2日とかかりませんでした。

開園をPRしてみると、45名の子どもが集まり、3名の女性が奉仕を申し出てくれました。園の名称は「北都学園」。今にもつかい立派な学園が出来そうなイメージの名前と看板でした。借家の間口3間ぐらいの集会場点呼を終えると、都島小公園で歌ったり、木陰で紙芝居やお話、お遊戯、ゲームをする

顧みて60年間の道のりは険しかったです。私たちは0才児保育も民間保育所の草分けでもありました。戦後のバラック小屋の様な建物も今日では鉄筋コンクリート建となりました。0才児から就学前の子どもたちを預かり、学童保育、さらには発達に療育を要する子どもたちの施設と、9カ園の施設になりました。今では1日1000名前後の子どもたちが出入りしています。

これまで私は子どもたちから多くのものを学びました。子どもには、子どもの世界があり、夢があります。時々、刻々と成長してゆく子どもたちには、未来があります。私の夢を子どもたちに託していきます。…』

戦前、戦中、戦後と法人の歩んだ道は、乳幼児や障がい児の保育・教育・療育はもとより、女性や生活者、地域や高齢者へと広がる日本の福祉事業の歴史そのものでした。

比嘉正子が亡くなった1992年以降、日本は本格的な少子高齢化社会を背景に、1997年(平成9年)に児童福祉法が改正、2000年(平成12年)には高齢者向けの保健・福祉サービスを統合した介護保険法が施行され、児童や高齢者をはじめとする福祉のあり方は大きく転換していきます。また昨年2015年4月からは、国の教育再生のためのブランドデザイン「子ども・子育て支援新制度」による「幼保連携型認定こども園」がスタート、私たち法人でも都島児童センター、都島友測保育園、成育保育園が、それぞれ認定こども園都島児童センター、友測児童センター、成育児童センターとして新たな出発をすることになりました。

のが日課でした。子どもの楽隊を編成して、プカプカドンドン太鼓を鳴らし、趣を変えて区内を行進したり、私の3名の子どものうち下の子は乳母車に荷物と一緒に積み、上の2名は園児と一緒に保育という毎日が続きました。雨の日は、狭い土間でピアノを弾いて歌とお話し、昼まで時間がたらず、午前中保育で切り抜けたりもしましたが、昼からの分の保育料をお返ししなければと本気で心配しました。

半年後、地元の山野氏にお願いし賃貸の園舎を建てていただき、土地、建物をお借りしました。当初1円だった保育料を2円に値上げ、その中から家賃を支払いました。園児も80名になり、ようやく安定した保育を続けることができるようになりました。戦争が始まり戦時体制となった頃には300名の子どもの預かるまでに膨れ上がりました。戦争の嵐の中では長時間保育は当然、避難訓練が日課の保育でした。食糧難、薬、衣類、履物、無い無い尽くしの中、昭和19年1月、2月と続いて、我が子2名を病死させてしまいました。昭和20年6月には、大阪第2回目の大空襲で園舎は焼失、ちょうど3月に休園しており、子どもたちの命は、守れました。

昭和20年8月、終戦。疲れ果てた母子が「夫が戦死しました。」「生活に困っています。」「働き口を探しています。」「子どもを預かって下さい。」「助けて下さい」等と訪れ、仏心が湧いて「よし、死んだわが子の墓を建てるより先に、生き残った人達の為の保育園をつくらう」と再び決意をして、昭和24年に都島児童館を再建、財団法人第1号として認可を受けました。

今日、日本は人口減少社会の中で、止まらない少子高齢化の進行、核家族化や単身世帯の増加、終身雇用の変化や若年層の雇用情勢の悪化、地域社会における支え合いの脆弱化など多くの課題とともに、都市部では待機児童の問題、あるいはこれまでの公的な支援では対応しきれない「制度の狭間にある」社会的排除や地域の無理解から生まれる新たな問題も起こってきています。またこれまでに日本の福祉の一翼を担ってきた社会福祉法人を取り巻く環境も、日本の社会の構造変化や経済的状況等から大きく変化し、あらためて私たちの存在意義が問われています。

私たちは創立85周年を迎えるにあたり、法人全体、職員一人ひとりが、法人が歩んできた社会福祉活動、その理念や目標を今再び深く振り返り、再確認することで、これからも皆様の信頼に深く応えられる地域に根差した社会福祉法人として、更なる前進を図りたいと考えています。またこの1年、6月に開催する「都島友の会 創立85周年記念発表会」をはじめ、記念行事や講演、研究発表会、各園での運動会や発表会、地域イベントの参加等を通して、地域のさまざまな福祉施設やボランティア、NPO、そして住民の方々々と深く連携し、安心して次世代を育むことのできる「暮らしやすい地域づくり」、その第一歩となる取り組みを行っていきます。どうか共につながり、共に結ばれ、共に支えあい、新しい都島をつくっていきましょう。



▲都島児童センター、都島乳児保育センター、都島第二乳児保育センターの職員たちと一緒に(理事長はどこにいますか?)



# 創立85年。創設者の理念を受け継いで！

平成28年3月1日、社会福祉法人都島友の会は創立85周年を迎えました。

法人の福祉事業の目標である「ゆりかごから墓場まで」とは、「すべての人が健康で文化的かつ快適な生活が守られ、豊かな人間生活が実現できることを内包するものでなければならぬ」との福祉の理念に向かって、その種子を蒔き続けることでもありました。蒔いた福祉の種は法人の歴史と共に、芽を吹き、成長し、やがて一本の木となり、多くの枝葉（施設・事業）をひろげるまでになりました。

私たちはこの1年を法人の記念すべき85周年の年として、創設者比嘉正子が歩んで来た道やその理念、法人の歴史を深く掘り下げることで、職員一人ひとりが自らの意識や技術を高め、よりいっそう地域に貢献できる社会福祉法人として前進できる絶好の機会にしたいと考えています。また法人の各施設をご利用いただいている方々や地域の人々へ改めて感謝すると共に、現在法人が取り組んでいる事業（子育て支援・自立支援・介護支援、相談支援等）をより広く知っていただくための1年にしたいとも考え、多くの記念行事やイベント、地域との交流を計画しています。私たちはこれからも地域に根差した社会福祉法人として、地域と共に、共に支えあい、共に協力し、歩んでまいります。

## 85周年記念の主な行事

### 記念講演会

『地域に新しい「支え合いのかたち」を創造する』  
—生活困窮者自立支援制度が意味するもの—  
講師 岩間伸之先生（大阪市立大学教授）  
都島児童センター4階ホール

4/14

3/1

### 都島友の会 創立記念日

各施設のお祝い

### Special Menu !!

創立記念日を祝って乾杯!

6/7

### 都島友の会 みやっこまつり 85th

地域の方々にも楽しんでいただけるようなイベントを企画しています。

- ◆ふれあい動物園 いろいろな動物とのふれあい体験
- ◆アートバルーンなど
- ◆相談コーナー（子育て・栄養・介護）

都島東保育園で行われた移動動物園（2015）

6/11

## 都島友の会 創立85周年記念発表会

- 保護者や利用者の方々への感謝と共に85周年を迎えた法人の歴史を振り返ります。
- 保育・教育、療育、介護等、私たちが地域貢献の視点から行っている取り組みや事業を紹介します。

発表会に向けて取り組みます

## 85周年記念行事予定

### 10月 幼保連携型認定こども園・保育園の運動会

かけっこ、遊戯、マーチング！  
保護者、地域の方々との交流も深めます！



### 12月 幼保連携型認定こども園・保育園の発表会

歌や劇、遊戯を披露！



## Anniversary

- 認定こども園 都島児童センター 85周年
- 都島乳児保育センター 50周年
- 都島東保育園 40周年
- 児童発達支援センター 都島こども園 40周年（こども発達サポートステーション それいゆ）
- 認定こども園 友測児童センター 35周年
- 都島桜宮保育園 25周年
- 都島友測乳児保育センター 15周年

### 比嘉正子地域貢献事業研修センター講演会

- 5月17日「家族支援のありかた」（仮題）第1回  
講師 倉石哲也先生（武庫川女子大学教授）
- 6月27日「家族支援のありかた」（仮題）第2回  
講師 倉石哲也先生（武庫川女子大学教授）
- 9月27日「里親制度の実際」（仮題）  
講師 梅原啓次（大阪市里親会会長）

### 介護員養成研修（介護職員基礎研修） （比嘉正子地域貢献事業研修センター）

- 春コース  
5月9日～7月13日（予定）
- 秋コース  
10月3日～12月7日（予定）

## 法人としての目標

### 地域貢献として

- \* 都島区社会福祉施設連絡会を中心とした各施設との連携・交流
- \* 比嘉正子地域貢献事業研修センターでの研修会・講演会
- \* 他施設職員との情報交流や勉強会
- \* 地域イベントへの積極的な参加
- \* 地域の人々に向けた福祉や生きがいを啓発する講演会
- \* 各施設相談事業の強化

### 施設や職員の質のさらなる向上

- \* ガイドブック「乳児保育と子どもの健やかな育ち」の作成及び活用
- \* ガイドブック「幼児教育・保育内容と子どもの健やかな育ち」の作成及び活用
- \* 法人職員のスキルアップのための勉強会・研修会

## 未来に向けて

- \* 社会福祉法人としての役割の再構築
  - \* 保育・教育、療育、介護の充実
  - \* ニーズを把握した地域貢献事業の充実
  - \* 総合福祉施設（児童・障がい・高齢）
  - \* 地域の核となる福祉人材の開拓と育成
  - \* 他施設とも連携した地域福祉における先進モデルの構築
  - \* 社会的包摂による地域再生
- ※社会的包摂（Social Inclusion）とは「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」という理念

都島友の会は、地域社会の中でこれまで以上に自らの存在価値を高め、地域に貢献していかねばなりません。そのため地域や住民の方々と深く連携し、新たな福祉事業を開拓。誰もが暮らしやすい「地域づくり」に向けて先進的な取り組みと活動を行っていきます。

## 法人の福祉の理念

「すべての人が健康で文化的かつ

快適な生活が守られ、豊かな人間生活が

実現できることを内包するものでなければならぬ」





# 幼保連携型認定こども園となって、この1年一。



国の「子ども・子育て支援新制度」によりスタートした「幼保連携型認定こども園」。法人でも平成27年4月から都島児童センター、友渕児童センター、そして成育児童センターが認定こども園となり、新たな出発をすることになりました。この1年、3園の職員が考えたこと、取り組んだこと、その活動を振り返ります。

## 都島児童センター

### 原点回帰 ―認定こども園としての1年間を振り返って―

4月のスタート時は職員の中の「？」の連続…。「認定こども園」となることで、『教育』という観点が色濃く加わり、「難しい」「大変なことになる…」との先入観から不安や難しさを感じていた職員がほとんどだったと思います。そうした中で、職員の声や反応を集めながら、この1年間を振り返ってみます。

#### 4月の時点での「認定こども園」のイメージ

- ・保育（教育）内容の組み立てが難しく…。
- ・保護者対応はどうすればいいのか？
- ・乳児保育と幼児保育（教育）はどうつながるだろうか？
- ・結局、認定こども園と保育園の違いって何？

といったもので、まず職員の疑問点や質問を出し合い、一つひとつを職員同士で話し合うことで理解を深め、解決していきました。



最初はさまざまなことに戸惑うことも多かったのですが、振り返ると、

- ・これまでにしてきた活動、保育内容を整理できた
- ・「知・徳・体」のバランスを意識して保育、教育内容を計画できた
- ・就学前教育に重点を置き法人独自の「チェックリスト」の作成を通して、『小1プロブレム』などが問題になる中で、小学校へのスムーズな就学をどうすればいいのか、話し合う時間ももてた
- ・課外クラブ活動を通して特別教育の重要性やニーズが見えた
- ・保育書類を見直し活用することで時間の使い方にバリエーションを持ち保育・教育にしっかりと「ねらい」を持つことができた
- ・職員同士で意見交換する機会を多くもつことができた
- ・意識が変わった。自分を見つめなおすキッカケになった
- ・（ピアノなどの技術面）
- ・乳児保育からのつながりを感じる機会になった
- ・地域とのつながりの重要性を学んだ

など、この1年間試行錯誤することで、かえって収穫が多かったように思います。



理事長との研修

法人は創立当初から「幼児教育」の必要性を説き、何十年も前に「幼児部・保育部」を設置、現在の「認定こども園制度」にあたる理念のもとで活動をしてきました。その意味でも都島児童センターは「原点回帰」をしたのであり、子ども・保護者・地域に寄り添い根付く「園」であること、そういった大切なことはいつになっても変わらぬ。私たちはそのような結論に達しました。

2016年、本園は法人創立85周年を迎えます。今再び原点に立ち返り、基本である保育理念（保育方針）のもとで、一人ひとりを大切にしたい保育、教育をいっそう心掛けていきたいと考えます。

## 改めて教育を考えた1年

### 全職員での話し合い

一般的には幼稚園は教育、保育園は保育をする所とのイメージを持たれているようですが、これまでの保育の中でも充分、教育は行っていたことを確認した上で、幼稚園と保育園の機能を併せ持つ園としてどのように教育・保育を進めていくのかについて話し合い、今まで行ってきた教育をもっとわかりやすく伝えられないかと考えました。大阪市より出された「就学前教育カリキュラム」では、3・4・5歳児のこどもの育ちを「知」言語 思考 創造、「徳」人とかわる力 規範意識 生命の尊重、「体」運動 基本的な生活習慣 健康・安全 食育 と3つの視点で表わされています。カリキュラムを立てる際、この「知・徳・体」がバランスよく育まれるよう、ねらいや活動を考え、保護者には毎日の活動を知らせるクラスボードに、その日の活動の視点が何なのか、「知」「徳」「体」を掲載して伝えることにしました。

### この1年を振り返って

毎日の活動の視点を「知・徳・体」と記載することで振り返りの際、活動の偏りに気がつきバランスよく次の計画が立てられるようになり、また、複数担任のクラスでは共通理解する事が出来、職員間での意識の統一がしやすくなりました。2歳児クラスでも同じように活動の視点（ねらい）を明確化し、子どもが主体になる活動や方法を考え、興味もてるような伝え方を工夫するようにし、0・1歳児においても養護的な部分だけでなく普段の生活の中にも、どういったところに教育的要素があるのかを意識するようにしました。縦割り保育を行っている4・5歳児クラスでは、これまでと同様、内容に合わせて年齢別の活動を行い、1号認定の子どもにも同じように教育・保育が提供できるように、活動は午前中に行うようにしました。

職員全員で考え、話し合ってきた1年でした。今年実践したことを見直し、さらに意見交換を重ね、質の高い保育を目指したいと思えます。

## “活動の中で何を育みたいのか？”を意識しながらの教育・保育

年間カリキュラム・月案等、書類の見直し『知育』『徳育』『体育』を記入することで、この活動を通して何を育みたいのかを明確にし、目標をもって教育・保育をすることができるようになった。



### 3歳児

基本的な運動機能が伸び、基本的な生活習慣がほぼ自立できるようになる3歳児。友だち同士の会話や話す言葉数も増え、盛んに質問するなど知的好奇心や関心が高まり、「友だちと遊ぶ」「ことに興味が出てくる。そのあそびの中に自然と「教育」を取り入れ、先を予測したり期待を持って行動できるように日々の教育内容を考えていくことに力を入れた。

室内あそびでは、かるたや塗り絵が大人気であり、かるたで遊んでいる間に平仮名を覚え、ぬりえでは枠からはみ出さず丁寧に進めていく力がついていた。好きなことに熱中しながら自然と身につく力を大切に、「好きなことからコツコツと」や「小さな親切にもありがとうと言える心を育む」を意識し、取り組んでできた事を4歳児クラスにつなげていきたい。



### 4歳児

様々な活動に意欲的に取り組めるよう、目標時間を設定。言葉掛けだけでなく、時計に印をつけ子ども自身も時間が意識し見通しができるよう関わってきた。今では、座っての活動時間も集中して取り組む姿が見られる。また、あそびの中では、かるたやトランプ等、自然に文字や数字に触れる環境を設定。ブロックやカプラー等、想像力を豊かにするあそびも取り入れている。友だちと関わる中で、トラブルもあるが、相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを言葉で伝える仲立ちをしながら「思いやりの気持ち（徳育）」が育つよう意識しながら関わっている。こうした小さな積み重ねが年長児へのステップアップとなることを踏まえ、これからも教育・保育ができるようになっていきたい。

### 5歳児



就学前教育を意識し、5歳児クラスで新たに取り組んだことがいくつかある。

進級した当初は、椅子に座って集中し活動できるのが20分〜30分間程度であった。子どもたちが少しでも長く集中できるように、メリハリをつけた内容の活動を考えた前半。集中力が持続してきた中期頃には、「二人掛け机」を使用することで全員が前を向いたままの姿勢で話が聞け、より集中力がアップ。また、午前中の活動（1・2時間目）の時間を45分間と決め、椅子に座って集中し活動することを習慣づけていった。また、様々な当番活動をチームごとに行い、「責任を果たす大切さ」も知っていった。給食当番は白い給食着で手伝いをしたり、時には配膳も経験し1人前の分量を知ったりもした。

このような就学に向けての準備を無理なく、少しずつ進めていくことにより、小学校へいってからの準備を無理なく、少しずつ進めていくこと



▲クラスボードに「知・徳・体」を掲載し、毎日の活動の様子をわかりやすく写真で伝えています。



乳児保育のガイドブックに続いて、  
**幼児ガイドブック**  
**「幼児教育・保育内容**  
**～子どもたちの健やかな育ち～」完成です。**

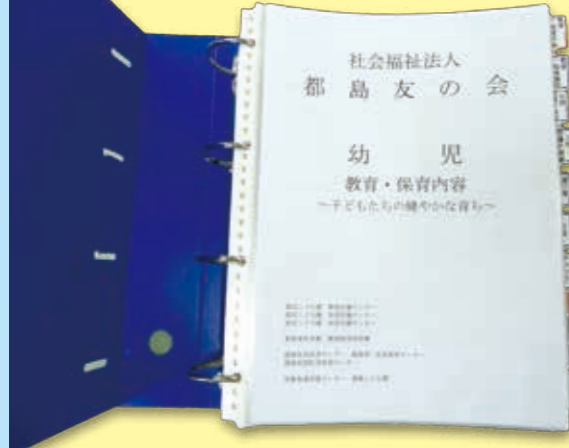


遂に完成したガイドブック  
**「乳児保育 ～子どもたちの健やかな育ち～」**  
**これから大切に活用していきます。**

前号のゆんたく (Vol.23) でお知らせした、都島乳児保育センターを中心に作った乳児保育のガイドブック「乳児保育～子どもたちの健やかな育ち～」が遂に完成。このガイドブック、簡潔に大切なことを伝えていて、法人内のどの園の職員が見ても、「さすがだな～」とうならせる内容です。先人たちの知恵がギッシリ詰まった宝物です。これから有効に活用して、保育の質の向上だけでなく、地域の子育てをしている全ての親子へのサポートに役立てたいです。

友測児童センター 林 大介／都島桜宮保育園 中嶋 耕平

都島友測乳児保育センター 山下 知子



今回の幼児ガイドブックを作成すると同時に、幼児カリキュラムを見直すことにも重点を置いてきました。平成27年度『子ども子育て支援新制度』の施行により、法人内の3園が今までの保育所から新しく認定こども園へ移行することになりました。そこで、従来の保育カリキュラムの見直しを行うことを目的として法人カリキュラム部会が発足しました。

平成26年度には法人内研修として現大阪女子短期大学学長の大西先生に講師として来て

て目指すべき年長児の姿を共有し、5歳児のカリキュラムを作成、3～5歳の連続性を確認しながら幼児クラスのカリキュラムを作成しました。

次に各年齢ごとの発達の様子を記録する『発達記録シート』の見直しを行いました。「これは知育？徳育？どっちの項目になるだろう？」「これは3歳児と4歳児でちゃんと繋がっているのか？」などを議論し、知育、徳育、体育、食育がバランスよく育まれるような内容を意識して作成しました。

このように、法人カリキュラム部会では、各年齢ごとの成長の目標や子どもたちの現状の様子を共有し、施設は違えど同じ目的意識を持って子どもたちと関わり、小学校へ送り出すことができるような取り組みを行っています。



「幼児教育・保育内容、特別活動、食育、危機管理、保健衛生、保護者支援、子育て支援」の7つのカテゴリーを法人9ヶ園で分担し、都島友の会の幼児ガイドブックとなる『幼児教育・保育内容～子どもたちの健やかな育ち～』を作成しました。都島友の会では各園、様々な特色がある中で、法人としての統一した幼児保育のマニュアルを作り、誰が見ても分かりやすく、写真付きで見やすいガイドブックです。

作成中にも、私たちが日々行なっている教育・保育内容の年齢ごとのつながりや積み重ね、実践と結果の見直し、改めて再確認をしながら進めていくことができました。3歳児～5歳児の教育・保育課程から、年間、月間、週日案指導計画書、そして年齢ごとの発達段階を項目化し、子どもたち一人ひとりの成長を記録できる『発達記録シート』があります。就学までに身に付けておきたい子どもたちの姿を明確にすることで、3歳～5歳でどのような教育的意図を持ったカリキュラムを組んでいるのか、さらに日本舞踊、琉球舞踊、和太鼓や音楽、英語、体育などの特別活動において、基本的な作法や姿勢、着付けの仕方、奏でも見ることが出来ます。今後は、この幼児教育・保育内容ガイドブックを活用しながら、職員の資質向上にもつなげていきたいと思います。



法人カリキュラム部会の活動として、はじめに年間カリキュラムの見直しを行い、法人で統一した年間カリキュラムの作成を行いました。各園のカリキュラム部会メンバーが自園の情報を集約し、各園の年長児の現状を伝え、近隣にある小学校の一年生担任の先生との懇談会で聞いた小学校一年生の現状も踏まえながら、『就学に向けて

いただき、新制度についての勉強会を職員全体で行う中で、認定こども園に移行するからといって新たに教育的要素を加えていくのではなく、『保育の中に含まれている教育的要素』を見直すことの大切さや『就学に向けて目指すべき年長児の姿』を明確にすることの大切さを教えていただいていたので、そういった部分を軸にカリキュラムの見直しを行っていきま

**在園児、地域の親子への支援**

乳児期は特に保護者との細やかな連携が大切です。離乳食やトイレトレーニングの進め方を相談し合ったり、ハイハイした、歩いたという瞬間に出会って子育ての喜びや楽しさを保護者と共有しています。また、人見知り、基本的な信頼関係などの心の発達、その他にもさまざまな内容をいかに保護者の皆様にわかりやすく楽しく伝えることが出来るかが、私たちに求められている専門性だと思います。楽しい時、うれしい時、困った時、泣きたい時：どんなことでも子どもの成長を話し合い、耳を傾け、一緒に育ち合えるような関係で素敵だと思えます。



お迎えの時には今日の楽しかった出来事を話して、また楽しくなります。体調のことで心配があれば詳しく伝えます。



作品展で色々なお店屋さんを作りました。親子で買い物ごっこを楽しんでいただき、大好評でした。

地域の方への室内開放では、在園児と一緒に遊びます。この日は指先を使ってシール貼りをしました。遊びながらお母さんの悩み相談になることもあります。



**保育士のスキルアップ**

現場で先輩について教わりながら保育士として成長していきます。先輩になってからも、日々勉強です。子どものふとした表情、しぐさ、つぶやき、成長、全てが愛おしく、子どもたちからもうキラキラした瞬間があふれています。そんな保育中のふとした疑問、安全に過ごすための手順の確認、いつでも解決できる、ありがたい「ガイドブックです」。



信頼する保育士との真似っこ遊びは楽しいな。触れ合って遊ぶともっと楽しいな。



ばあ！  
 ったら笑って  
 応えてくれた。  
 自分以外の存在に  
 気づいた。  
 毎日一緒に過ごす  
 友だち。



「痛い所はありませんか？」  
 お医者さんごっこ。  
 経験したことを再現して遊んでいます。

一緒にいるだけで  
 楽しい。  
 言葉はなくても  
 顔を見合わせるだけで  
 何かが通じるんだね。







保育士1日目、先生と呼んで貰えることが嬉しく、子どもたちと過ごす日々を楽しみに感じました。それから月日は流れ、子どもの成長に感動したり、喜びあったり…。しかし良いことばかりではありません。より良い保育を目指す中で悩むこともありました。そんな時に助けてくれたのが先輩です。様々な意見や協力を貰い、自分では考え出せなかった解決法を導きだして貰いました。法人全体で勉強会を開いたり、著名な先生から保育技術の研修を受けることもあります。「温故知新」の心を大切に、85年にも及ぶ伝統の保育を大切にしている都島友の会。保育の技術、チームワーク、そして子どもと保護者を愛する心はどこにも負けていません。ここに勤めて良かったと痛感しています。



都島乳児保育センターで2年、都島第二乳児保育センターで6年勤め、今年度都島児童センターに異動してきました。第二乳児保育センターでは一時保育などの子育て支援に携わり、未就児の保護者の方の相談を聞いたり、こちらからアドバイスをする機会もありました。在園児のクラス担任になってからは子どもたちの日々の成長を保護者の方と一緒に喜び、今回、都島児童センターに異動してみると乳児であった子どもたちが幼児に進級し卒園するまでにどのような過程を経ているのかを間近で感じ、子どもたちの成長の速さに驚きを隠せない日々です。現在は幼児クラス(3歳児)の担任として自分の特技であるダンスを取り入れた保育を実践、発表会では可愛いちびっこダンサーがステージに立ってくれました。朝の4・5歳児の朝礼では、今流行の曲をみんなで踊ったり、誕生会では役になりきってダンスを披露しています。これからもあそびの中でリズム感や全身を使った運動ができるように取り組んでいきたいと思っています。



先日の出来事です。園の近くで、「奥田先生、おひさしぶりです。」と女の子に声を掛けられました。名前を訊ねると、20年前に1歳児クラスで受けもった子で、今は勉学やクラブ活動に励んでいる立派な大学生となり、思い出話や将来の夢についているんな話を聞くことができました。「熱心に取り組んでいることがある。」と話す表情が希望に満ち溢れていて、立派な成長ぶりに感動したとともに、一緒に過ごした小さかった頃の日々を鮮明に覚えていてくれたことがとても嬉しく思いました。保育士という仕事は、こんなふうに保護者の方々や子どもたち、職員や地域の方々など様々な人との出会いがあり、そのことが感動や「やりがい」に繋がっているのだと改めて実感しました。



私は都島友の会の正職員として、13年間保育士を続けていましたが、4年前から非常勤職員として働いています。頼りにしていた家族の協力が得られなくなり、子育てと両立しながらこれまでと同じように働くことが難しくなったからです。退職することも考えましたが、続けたいとの気持ちも強く、園長先生と相談の上、自分のできる範囲で保育の仕事頑張りたいと続けることにしました。

園長先生をはじめ、周りの先生方には私個人の事情もよく理解して頂き、勤務時間や日数、子どもの病気による急な休みに也快く対応してもらるので、とても働きやすいです。

今は二人の子育てで、夫が単身赴任中とあって、忙しい毎日ですが、慣れた環境と理解ある温かい先生方のおかげで、大好きな保育の仕事と家庭を両立できて、嬉しく思っています。



保護者から、「朝、疲れていても、先生の“おはようございます!”の声と笑顔に、“よし、頑張ろう!”という元気を貰っていました。」との声を聞いたことがあります。私の笑顔が相手の方を元気にしていると思うと、とても嬉しく、今まで以上に気持ちを込めて挨拶しようと意識しているうちに、今度は保護者の方から返ってくる笑顔が、私に新たな力をくれたことに気がきました。

『笑顔は減るものではない』という言葉聞いたことがありますが、私はその言葉のはじめには、「互いの笑顔があれば」が付くと思っています。挨拶だけに限らず、何をやるにしても、一方通行では気持ちが続かなくなってしまいます。言葉に気持ちを乗せることで新たな力を貰える、ということを保護者の方からの言葉で気付かせていただきました。



子どもの頃からの夢だった保育士。一度は職に就くものの退職し、一時は法人の保育所に子どもを預けながら別の職に就いていました。2人目の子どもを出産し、休職中に、「もう一度保育士をしてみない?」と声を掛けてもらったのがきっかけとなり、復職したのが十数年前のことです。

正直、子育て真っ只中の復職に不安もありましたが、たくさん子どもたちに囲まれながら過ごす毎日とても充実し、あっという間に月日も過ぎていきました。

現在は自らの子育ての経験談を保護者の方に話しながら、一緒に子どもたちの成長を見守り、毎日の保育を楽しんでいます。歳を重ねると体力は衰えがちですが、元気いっぱい子どもたちから元気の源をもらい、更にパワーアップをはかる今日この頃です(笑)。

復職して本当に良かったと思っています。



2人目出産を機に退職し、子育てに専念していましたが、そろそろ仕事復帰をと考えていた頃、ありがたいことに声を掛けていただきました。

退職前はデイサービスで勤務していた為、久しぶりの保育園勤務は不安もありましたが、ただただ子どもたちの可愛い姿に癒され、パワーをもらっている毎日です!

育児・家事・仕事の両立や子どもが病気の時の葛藤、思い通りにはならないことだらけ…の子育て真っ只中ですが保護者の方と同じように悩み、共感しつつ可愛い子どもたちの笑顔の為に微力ながらも頑張っていけたらと思っています。

# あなたの出番を子どもたちが待っています 子どもたちの未来のために、 あなたの力と経験を活かしてください!

都島第二乳児保育センター 岩本 真弓

日本では少子化が進んでいるのに待機児童は全国に数万人、潜在待機児童数は40万人とも言われています。待機児童の解消にはまず保育士の数の確保と保育所数や定員の増加など受け皿が必要です。しかし深刻な問題は圧倒的な保育士不足。厚生労働省の調査によると来年の2017年には7万4000人\*の保育士が不足するそうです。しかしもつと大切なことは保育の質です。保育士の数の確保は重要ですが保育の質が悪くなるようであれば保護者は安心して子どもを預けることはできません。そこでいま求められているのが保育士の資格やキャリアがありながら現場を離れておられる方々…。

結婚や出産を機に現場を離れている方が数多くいらっしゃいます。ブランクが長いことで現場復帰に二の足を踏む…。でも妊娠・出産を機に現場を離れた方なら子育てを経験され、この経験は保育士としては貴重な財産のはず。また保育を離れ、異業種で働いた方なら、社会人として培った数多くの能力もお持ちのはずです。都島友の会では貴重なキャリアをお持ちでありながら現場を離れている方にもう一度現場復帰をしてもらい、共に一緒になって、質の高い保育や教育を目指していきたく考え、復職応援セミナーをはじめ、様々な活動を行っています。

子どもたちの輝く未来のために、是非一緒に頑張りたいというあなたの出番を子どもたちが待っています。

\*雇用均等・児童家庭局配付資料(厚生労働省)  
http://www.mhlw.go.jp/file/05\_Shingikai-11601000-Shokugouan-anteikyoku\_Soumuka/0000037612.pdf

## 保育士復職応援セミナー

### program 1 乳幼児の事故予防

- アレルギーについて  
アレルギーの基礎知識や、実際の給食での取り組み、配膳の仕方など
- 保育園におけるリスクマネジメント  
事故の種類、ヒヤリハットの事例、感染症対策、不審者対応、事故防止策など



### 参加者からの感想

- 大好きな子どもと一緒に過ごせる喜びを聞いて、保育士を目指していたころを思い出した。
- 命を預かっているという重みを感じた
- 復職した先生が笑顔で話しているのを見て、楽しんで仕事をしているのがわかった
- 現場の先生から直接話を聞くと、伝わってくるものがあり、とても勇気もらった
- 事故予防については、園での対応の仕方が参考になった

平成27年10月から11月にかけて4回、大阪府保育士・保育所支援センター主催の「保育士復職応援セミナー」の講師として、都島友の会各園の副園長、主任が講義しました。最近では少子化と言われていますが、保育所の利用希望は多く、待機児童を抱える自治体も少なくありません。そのうえ、保育士不足も大きな問題となっています。保育士資格は持っているても、実際には働いていない『潜在保育士』を現場に来てもらいたい、でもブランクがあつて心配・今の保育現場はどのような様子になつているのかなど不安な気持ちや解消できるような、次のようなプログラムで講義しました。

### program 2 保育士の役割

- 「やりがい」と「魅力」とは  
復職した現場の職員の対談ビデオを鑑賞



いろいろなカタチで働いたって、仕事のよろこび、やりがいは一つです。

都島友の会の各園では、多くの職員が働いています。正規で働く職員、短時間で働く職員、しばらくのブランクから現場復帰した職員、いろいろな形で働く法人の職員の声をまとめました。





沖縄だより

沖縄の渡保育園、松島保育園は  
同じ那覇市内にありながら環境は異なり、  
それぞれ園の特色にも大きな違いがあります。

沖縄 伊禮 良樹



WATARU



渡保育園は首里の城下町に位置し、落ち着いた住宅環境の中、周辺には風光明媚な名所や文化財も数多く、ご高齢の方も多く住まわれています。渡保育園では地域のお年寄りを園に招き、ふれあいの時間を楽しくもったり、子どもたちがダイケアーへ訪問をするなど、お年寄り子どもたちとの今も昔と変わることのない自然な交流の姿がひとつの特色となっています。また卒園児たちが楽しかった園での生活をせむわが子にも経験させたいと、今度は保護者となって戻ってきたり、保育士として現在4名も勤務するなど、保護者の方や地域との強い結びつき、緊密なつながりが園の伝統を感じさせる、大きな特色ではないかと思えます。渡保育園では今後も、園の歴史を大切に、一日一日を大切にしたい保育を心がけることで、やさしさとしなやかさを持った人づくりを目指し職員一同、力を合わせていきたくと思っています。



チャーがんじゅう  
ゆんたくタイムでの触れ合い

金城町地域清掃活動



地域のおじいちゃん、おばあちゃんと  
一緒におやつをいただきました



MATSUSHIMA



知・徳・体のバランスを  
考えたカリキュラム

松島保育園の周辺は学校や病院、マンションに囲まれ、地域との交流がなかなか取りづらい環境にあります。そこで職員が近くの公園の清掃活動を行ったり、那覇市の地球環境保全行動計画の推進事業に園として参加するなど、地域交流や地域に根差した積極的な取り組みを行っています。松島保育園は保護者の協力体制もよく、定期的に「父親座談会」を催すなど父親の協力、祖父母の送迎や行事への参加も多いのが特色です。また沖縄では4〜5歳児になると小学校内にある幼稚園へ半数近く行くのが一般的です。松島保育園はそうした中で、就学に向かう年長児の保育に特に力を入れ、一貫したカリキュラムで、知育、徳育、体育、バランスの良い成長を図れるよう、努めてきました。その甲斐もあり、約9割の子どもたちが園に残り、他園からも数名の年長児が転園してくるなど、松島保育園に入園すると成長する！との信頼を勝ち得ています。これからも地域や保護者の方々から信頼を最大の特徴、大きな園のブランド力としていっそう確立していきたいと思えます。

渡、松島両園とも、10年、20年先を見据えた保育で、将来を担う人間づくりに励むと共に、地域の方に愛され、地域と共に支え合う保育園を目指していきたいと思っています。

児童発達支援センター

都島こども園



「児童発達支援センター 都島こども園」の園名が  
「こども発達サポートステーション それいゆ」  
に変わります。

都島こども園 園長 仲田 恵利子

これからもよろしくお願ひします

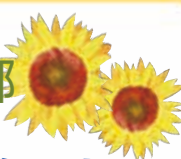


年4月から、園名を「こども発達サポートステーション それいゆ」と変更し再出発することになりました。すでに通園事業の他に、地域事業として相談支援事業、保育所等訪問支援事業に取り組んでおりますが、40年間にわたり培ってきた私たちの療育支援を、これからは今まで以上に地域へ向けて注力していきたいと考えております。その一つとして、大阪市障がい児等療育支援事業の取組です。この事業は当園の職員が、区内外の認定こども園、保育園、幼稚園等に出向き、発達に何らかのつまずきがある、友達とうまく関われずなどにトラブルになる、お子さん自身が園生活で困っているなど、ほんの小さなつまずきも見逃すことなく、必要がある場合は早期療育へと繋げることができるよう職員や保護者の方に提案させて頂き、現場の職員には気になるお子さんに対する支援の方法を一緒に考え、アドバイスをさせて頂きます。これからも私たちは児童発達支援センターとして、地域のすべてのお子さんたちが個々のより適した環境の中で安心して過ごす事が出来るよう、地域へ積極的に出向くと共に、地域に根ざした児童発達支援の拠点として幅広くきめ細やかな活動に取組んでいきたいと思ひます。

法人創立85周年と同時に都島こども園も40周年を迎えます。40年間にわたり、多くの保護者の皆様に支えられ、共に様々なお子さんの療育に携わらせて頂き、現在を迎えることができたことを心から感謝しております。また平成18年度からは大阪市の指定管理を受け運営してまいりましたが、平成27年度末で終了となります。この大きな節目となる平成28年4月から、園名を「こども発達サポートステーション それいゆ」と変更し再出発することになりました。すでに通園事業の他に、地域事業として相談支援事業、保育所等訪問支援事業に取り組んでおりますが、40年間にわたり培ってきた私たちの療育支援を、これからは今まで以上に地域へ向けて注力していきたいと考えております。

特別養護老人ホーム

ひまわりの郷



介護虐待を起さないためにも、  
何より大切なチームアプローチと「心のゆとり」。

ひまわりの郷 入江 武司



最近の出来事ですが、他府県の老人ホームで虐待による死亡者が出ました。虐待のニュースが出ると、全ての老人ホームで高齢者虐待が常にあると思われがちです。ほんの一部の悪質な施設の為に、介護施設のイメージがマイナスになってしまっています。何故、もっと早くに虐待の傾向を把握できなかったのか、疑問に思うところがあります。高齢者の虐待防止に取組もうとするならば、個々の職員の意識改革や自己の努力では限界があり、根本的な解決にならないと思ひます。虐待が発生する施設にはチームアプローチが不足していると言われております。施設全体で取組む姿勢がもっとも大切ですが、実際の所、介護虐待は身体的な拘束や暴力よりも、「これをしてはダメ」「がまんして」と言葉によって行動の制限を行う「言葉による拘束」(speech lock)による被害の方が多いのです。普段何げなく発している言葉が、実は虐待行為(心理的虐待)になっていることがあり、それがひいては身体的虐待に移行する事が多くあると言われております。ひまわりの郷では、フロア会議や身体拘束廃止委員会等で不適切だと思われる言葉をお互いに注意し、共有することで、職場全体でスピーチロックの防止に努めています。また利用者支援を最優先するために、例えば、「明日出来ることは明日に行う」「次のシフトの職員に少しお願いをする」。ほんの少しの心のゆとりを持つことも大切だと思ひます。仕事を疎かにするということではなく、今日中に終えなければならぬ業務を抱えていると、どうしてもご利用者に「ちょっと待って！」などと言ってしまうがちなことからです。それでは心のゆとりが持てない状態となってしまいます。15年目を迎えたひまわりの郷。「心のゆとり」をもっと大事にして、施設全体でより質の高い介護サービスに取組んでいきたいと思ひます。



放課後児童健全育成事業

保護者が昼間家庭にいない小学生が安全に過ごす生活の場として、働く親の安心と子どもたちの健全な成長のための支援をしています。日々の活動の中で生活習慣の基本を身につけ、毎日の宿題、自主学習（復習・予習）への取り組みをサポートし、学習習慣を身につけていきます。異年齢児との関わりや地域の方々との交流を通して、人を思いやる心の豊かさや社会性を育み、様々な体験やあそびを通して、自分で考える力、自立性を培っています。

日々の生活に  
子どもたちの成長が  
詰まっています



都島児童館では、キャンプや遠足・お祭りなど、様々な行事があり、一年間の豊かな経験を通過してどんどん大きくなっています。年度の後半になると子どもたちの成長は目覚しく、その成長を感じられるのは、案外、行事の時ではなく、何気ない日常の「コマ」だったりします。

一口に「成長」といっても様々で、てきぱきと着替えるようになったとか、算数が苦手なのにひとりで解けたとか、という個の成長ももちろんのこと、多くの仲間との関わりから生まれる、社会的な成長が見られるのは児童館ならではです。大好きな友達と喧嘩をする。怒る。我慢をする。折り合いをつける。譲りあう。下の子の面倒を見る。上の子の言う事を聞く。憧れる。誇る。乱暴な言葉を使ってみる。真似をする。傷つける。いつの間にか仲直りをする。また、喧嘩をする。でもやっぱり、大好きな友達といっぱい楽しむ。

保育者になるべく介入せず、自分たちで解決をする。「ごめんね」「いいよ」で解決しないのが子どもたちのリアルであり、その中でいろんなことを感じ、社会性を育み、思いやる心を身に付け、たくましく育っています。



大好きな仲間とのあそびのなかで育まれる社会性

子どもたちは、ごっこあそびが大好きです。小学生なのに幼稚だと思われるかもしれませんが、社会性を身につける上でとても重要なあそびです。初めのうちは、自分を何かに見立ててなりきったり、人形を使って遊んだりしますが、外の世界に興味、関心を持つなかで、他人と関わりを持つお店ごっこや学校ごっこなどに発展していきます。しっかりと外の世界を観察し、自分を客観視して遊びを展開することで、なりきることやコミュニケーションを楽しむ、あそびの中で社会性が育まれていきます。また、折り紙や絵本など、商品を一からコツコツ作って売るなど、制作あそびやブロックあそびと組み合わせ、子どもたち自身であそびを発展させています。さらに高度になってくると、企画をたて、ポスターを作り、自分たちでお祭りを開催するなど、ごっこあそびの枠には収まりきれないくらいの、周りを巻き込んだあそびとなります。

誰かに教えられるわけではなく、周りの子のあそびからヒントを得て、自分たちで創意工夫し、日々形を変えていくごっこあそび。それを楽しむ子どもたちの姿は、何ものにも代え難い成長の証だと感じています。



ひまわりネットとの連携

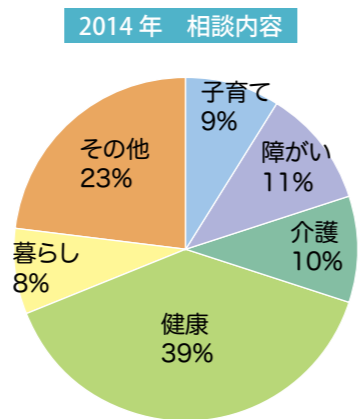
都島児童館は、放課後児童健全育成事業のみならず、地域の児童福祉に目を向け、地域福祉の相談窓口として設置されている比嘉正子地域貢献事業研修センター『ひまわりネット』と連携をとり、児童福祉の専門機関として、より児童の現状に即した形で支援を行ってまいります。

障がい・不登校・いじめ・虐待といった悩みはもちろんのこと、「最近、言葉遣いが悪くなってきて」「勉強についていけないか心配で」など、どんな小さな事でも、抱え込まずに気軽に相談ください。

「子育て・障がい・介護なんでも相談室」報告

創設者比嘉正子の志を継ぎ、制度の狭間で様々な問題を抱え苦しんでいる人たちに寄り添い、専門機関への橋渡し役となり、より敷居の低い地域の窓口として「心」の居場所づくりを目指しています。

最近の相談には先が見えない、終わりがなく相談が目立ち、一つの相談のなかには様々な問題が混在している。「どこへ行けばいいの」ように話せば、「どこへ行くべきか」ともありません。まずは、安心してじっくりお話ししていただけるよう心がけ、お聴きし、問題解決の一助になればと、専門機関に「つなぎつないで」います。



ワンストップの家族支援『ネウボラ』って？

フィンランド語で『ネウボラ』とは、アドバイスを受ける場所 という意味。妊娠中、子育て中には、悩むことも相談したいことも種々様々。だけど、子どもを連れてあちこち行くのも大変！『ネウボラ』とは、妊娠から子育てにおける様々な助言・長期的支援などのサービスを受けられる制度。

全ての世帯（家族）が、ひとつの場所で、同じ相談員に支援を受けられ、医療、福祉などの連携、そして相談場所が身近にある「切れ目のない支援」が必要とされています。



都島友の会は「子育て包括支援」の拠点となり、ワンストップで家族の支援に貢献していきます。

全ての家庭と子どもに「切れ目のない支援」ができる、それがネウボラです。



HIMAWARI.NET 連載こらむ

ネットのきもち 8

私と長女は大猿の仲。ほとんどが些細なことで揉め、お互いイライラすることも多々。例えば、洗濯物の干し方が違う、夕飯食べるか食べないかの連絡なし、言った言わない……もつともつとあるが「恥」はこの辺で……(笑)

と、毎日思うことはあるが、お互い最低限の会話と関わりの中で何とか平和を維持している。

先日夕方に用事があり、長女にメール。私「〇〇に行つて帰りは8時半くらいになる」長女「今日は残業で遅くなるよ」私「お疲れさん」長女「そっちは、お疲れさま」私「メールだと優しくなれるな」長女「不思議やね(笑)」

相談を受ける立場としては、まず話を聴く。「人へのおもいやりを持つて」「その人の立場にたつて」「目線を同じに」「気持ち共有して」「言葉の重さを考へる……と自分を戒めている。

ひまわりネットには、相談に来られる人ばかりではない。センターを利用される人、「ひだまり食堂」のランチを食べに来られる方がいる。たくさんの方との会話に花が咲き、人はそれぞれの人生を持ち、知らなかったことを知ること感謝し、そして、なにより笑顔に出会えることを幸せに感じている。

人のお付き合いには言葉は不可欠。でも時には(多々か!)言葉で傷つけてきたこともあった。特に家族間では余裕なく、待つこともできずに遠慮なしの言葉が「売り言葉に買い言葉」で言い合い、言わずもがな言葉の放ち、後悔していることもある。未だに…… 懺悔!

夜10時過ぎに帰宅した長女は「桜餅」2個、お土産に帰宅した。そして、テレビを見ながら「桜餅」を二人で食べた。

次は、風薫る季節が来る。その頃「柏餅」のお土産をちよっぴり期待して優しくしてみるか!





# 都島こども園・ 都島東保育園の建物 大阪市から都島友の会へ移管



都島こども園は、大阪市が設置する障がい児通園施設として、昭和51年7月から管理委託を受け、また平成18年4月からは指定管理者として、40年の長きにわたり当法人が運営してきました。この間、平成24年4月からは、児童福祉法・障害者総合支援法に基づき、大阪市立の児童発達支援センターとして、障がい児に対する日常生活における基本動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等を実施しています。

また都島東保育園は、待機児解消のため、昭和51年5月、大阪市が設置し、当法人が建物の貸付を受け運営しているところです。

両施設は同じ建物（合築施設）で、日頃より地域・保護者の皆様のご支援を賜りながら東都島地域における当法人の保育・療育の施設として歩んでまいりました。

平成25年12月、大阪市では、都島こども園をはじめ、指定管理者制度を導入している福祉施設を民間へ移管していく方針を出されました。当法人としては、都島こども園・都島東保育園は合築施設であることから、移管先として、当法人に決定いただくよう、約2年間にわたり、要望・協議を重ねてきたところです。大阪市では両施設運営の長年にわたる当法人の実績と経験を評価され、当法人を移管先として決定、平成28年4月1日で両施設建物の有償譲渡を受けることとなりました。

当法人としては、建物が40年を経過し、建物・設備も老朽化していることから、保育・療育環境の整備のため両施設の建替えとともに、隣接する当法人の特養「ひまわりの郷」と一体化した複合施設の整備を、法人創立90周年事業として検討してまいります。

本部事務局 局長 寄瀬 博光

# 『みやっこガイド』完成！ 都島区社会福祉施設案内

都島区社会福祉施設連絡会は、平成15年、私たちが住み・働き・暮らす、都島の地域福祉の向上と発展に寄与しようと区内の社会福祉施設が集い、発足しました。福祉施設連絡会に参加した施設は、職員相互の研修や交流を重ねることで、施設相互の連携も深まり、それぞれの施設の事業内容も充実してきました。

今回、地域にある各施設を地域の方々により広く知っていただき、また各施設の相談支援内容を



施設が所有しているさまざまな資源を地域の皆さまにご活用いただきたいとの願いから、都島区の社会福祉施設案内誌『みやっこガイド』を作成し、その完成披露を兼ねた親睦交流会が、2月24日、都島児童センター4階ホールで行われました。施設相互のいっそこの親睦を図ることを願って始められた交流会もはや数回、美味しい料理に舌鼓、各施設の出し物に盛り上がり、打ち解けた雰囲気の中で情報交換・交流を図っています。

これからも『親切・丁寧・真心こめて』という理念のもと、提供する福祉サービスは施設により異なりますが、福祉の心は一つ。お互いがより良くなるが、地域福祉の向上と発展のために、やさしさと温かみのある福祉活動をしていこうと考えています。

本部事務局 木下 真弓

## 今号の表紙



- 1 特別養護老人ホームひまわりの郷
- 2 都島児童センター
- 3 児童発達支援センター
- 4 都島東保育園
- 5 都島友渕乳児保育センター
- 6 都島校宮保育園

## 編集後記

都島区の広報M-YAKOJIMA 10月号の「みやこいま昔館」に、都島友の会が取り上げられました。さらに12月号ではそれを見た方から、「息子も通っている保育園がこんな歴史があることが誇らしい」とのおたよりが掲載されていました。私自身も、児童センターの写真が載っているのを見た時、勤めている園がこのような形で取り上げてもらえるなんて嬉しいし、歴史のあるすごい法人に務めているんだ、と改めて思いました。紙面を通してこの保護者と通じ合えたことで、広報誌の面白さも感じるものが出来ました。それは、広報誌の力でもあるし、都島友の会のすごさでもあるのでしょうか。なんて、ちょっと手前味噌でしたか？

都島友渕乳児保育センター 山下 知子